

# 化粧品の動物実験を 終わらせよう

## No More Animal Testing

化粧品のために、動物たちが殺されています

シャンプーを眼に注入されるウサギ

口紅を強制的に食べさせられるマウス

クリームを塗られて皮膚がただれるモルモット

この動物たちを救うことができるのは

化粧品を使う私たちです

Millions of animals are killed

For cosmetic testing

Rabbits are forced shampoos into  
their eyes

Mice are forced to feed lipsticks

We can stop them



本当の美しさは、誰の犠牲も必要としない

<http://www.usagi-o-sukue.org/>



## 眼刺激性試験

眼を手足でこすらないよう頭だけが出る拘束器に入れられたウサギは、眼に化粧品の原料を注入されて、3日間、苦しみ続ける。実験が終わればすべて殺される。



## 皮膚刺激性試験

毛を剃られ、わざと傷をつけられた皮膚に、化粧品の成分が直接塗り込まれる。化粧品を繰り返し使用する場合の毒性を調べる試験では、1日1回塗布され、それが2週間続く。骨が見えるほど皮膚がただれてしまう。



「背中に試薬を塗られ、板に縛り付けられ、UVランプに晒されたモルモットたちは、熱さと痛みで逃げようとして「キュー、キュー」と泣き叫び、失禁し、脱糞する。それが何度も何度も繰り返される」

(研究者が「もっとも過酷」という光感作性試験)

---

## ウサギやモルモットが実験台に

化粧品の安全性や有用性を調べるために、ウサギやマウス、モルモットなどの動物が、実験に使われています。ウサギの眼に試験物質を注入してつぶしてしまう実験は、1944年に開発され、それ以来70年以上にわたって行われ続けてきました。ウサギとヒトの眼の解剖学的な構造の違いから実験データに信頼性がないとして、研究者の間でも批判が大きいにもかかわらず、「動物を使うしか方法がない」として長い間、動物が使われ続けてきたのです。

しかし、1980年になってアメリカでこの残酷な実験の実態が明るみに出るとまたたく間に反対運動が沸き起こりました。



---

## EUでは2013年に完全禁止、 世界も続いています

「動物実験している化粧品は使いたくない」という消費者が増えた結果、欧米では多くの企業がつぎつぎに動物実験廃止を宣言。「動物実験していない」ことが化粧品選びの基準になりました。EUでは2004年から段階的に化粧品の動物実験を禁止、2013年には完全禁止が実現しました。その後、イスラエル、インド、ブラジル・サンパウロ州、ニュージーランド、台湾など、いくつもの国がそれに続き、「化粧品の動物実験禁止」は世界標準となりつつあります。

---

## 日本でもNOの声を！

私たち JAVA が20年以上続けてきた活動が功を奏し、日本でも反対の機運が高まって、2013年には最大手の化粧品メーカーが国内での動物実験廃止を宣言。その後、他の大手メーカーもそれに続いています。いまだに動物実験を行うメーカーやサプライヤー（原料メーカー）は存在し、法的には野放しの状態です。すでに安全性が確認され、長く使われてきた原料は膨大にあり、動物実験はメーカー次第ですぐにでもなくすことができます。しかし、化粧品の動物実験廃止を早期かつ確実に実現させるには、国が法的禁止に向けて舵を切ることが必要です。

## 動物を犠牲にしない 代替法への転換を

だいたいほう

化粧品の動物実験反対運動が広まるにつれ、動物実験に代わる試験方法、「代替法」が研究開発されるようになりました。

生きた動物を使うのではなく、培養細胞、人工皮膚モデル、コンピュータシミュレーションなど、時代時代の最先端の技術が駆使されて、動物実験に代わる試験方法、研究方法が開発されてきています。

動物実験は、実験動物を維持管理するためのスペースや給餌の手間など飼育のコストがかかります。また、そもそも動物と人間(=ヒト)の間には「種差」が存在し、動物実験の結果は必ずしもヒトに当てはまらないという根源的な問題を抱えています。

一方、代替法は、試験管やコンピュータのなかで行うことで経費も時間も圧倒的に削減できるうえ、ヒトの細胞を使ってヒトの安全性を調べることができるという大きなメリットを持っています。さらに有毒廃棄物を少量で抑えられるため実験者の労働衛生や環境保護の点からも有益です。

代替法は化粧品の動物実験反対運動を背景に誕生しましたが、いま、化粧品に限らず、医薬品を含むさまざまな化学物質の毒性試験の場で、代替法が利用されるようになってきています。アメリカでは殺虫剤、工業用化学品、食品添加物、医薬品など化合物の毒性試験を動物を使わずに行うモデルの開発が国策として進められており、今後代替法のニーズはますます高まっていくと思われます

日本でも、国を挙げて代替法開発に取り組んでいくことが必要です。



©JAVA(3T3 NRU法による光細胞毒性試験)

# あなたにできること

## What You Can Do

### ● ASK

「化粧品をつくる際、動物実験していませんか？」

まずは愛用メーカーに手紙やメール、電話で確認してみよう。

### ● SUPPORT

「動物実験しないポリシーを支持します」

動物実験していないことを確認してからそのメーカーの製品を買おう。「動物実験していないメーカーを応援します」と伝えよう。

### ● BOYCOTT

「動物実験をやめるまで買いません」

動物実験しているメーカーの製品を買うことは、動物実験を支持することにつながります。「買わない」という不買の意思をはっきりとメーカーに届けよう。

### ● TELL

「化粧品の動物実験って知ってる？」

この事実を知らない消費者が多いことが、メーカーが動物実験を続ける大きな理由。友達に知らせたり、SNSで広めていこう。

### ● CALL for BAN

「化粧品の動物実験を禁止して！」

国として動物実験を禁止していく方針をとるよう、政府に求めていこう。

○厚生労働省 TEL.03-5253-1111(代)

🔍 厚生労働省 国民の声

検索

○消費者庁 TEL.03-3507-8800(代)

twitter:@caa\_shohishacho

# JAVAを応援してください

JAVAは1986年に設立された非営利の市民団体です。動物実験の廃止を求める運動を中心に、動物の権利擁護を訴え、世界各国の動物保護団体とも連携しながら、実践的な活動を展開しています。

JAVAの活動は会費と寄付によって支えられています。活動に賛同していただける方は、どなたでもご入会いただけます。私たちと一緒に、動物の命を守る活動を進めていきましょう！

## 会員種・年会費

- 一般会員：6,000円
- 賛助会員：12,000円
- 学生会員：3,000円
- 法人会員：一口50,000円



下記どちらかの口座にご送金のうえ、ご住所・お名前・電話番号・会員種をお知らせください。ご入金確認後、定款や会報などをお送りします。

- 郵便振替：口座番号 00190-2-670517
  - ゆうちょ銀行：〇一九店 当座 0670517
- ※ 共通名義 JAVA

当会ウェブサイトからは、クレジットカードでお支払いいただけます。

- 任意のご寄付もありがたくお受けしております。



## JAVAコスメガイド

動物実験していない化粧品メーカー等のガイドブック(400円)。

ネットショップ「JAVAグッズストア」にてお求めいただけます。



**JAVA** NPO法人 動物実験の廃止を求める会  
JAPAN ANTI-VIVISECTION ASSOCIATION

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町29番31号 清桜404

TEL: 03-5456-9311 FAX: 03-5456-1011

URL: <http://www.java-animal.org> E-mail: [java@java-animal.org](mailto:java@java-animal.org)

\* JAVAは特定の企業・政党・宗教とは関係のないボランティアの市民団体です。